

ラジオ講座国語『春に』についての答え合わせ

問いの例

谷川俊太郎さんの詩『春に』の題名に込められた意味について考えて書きましょう。

解答の例 (①と②をつけました。何を書くと満点か、非常に難しい問いです。自分の答えを友だちや先生に読んでもらって、「なるほど」と納得してもらえるかどうか、ためしてみましよう)

解答の例① (春に のあとに続く言葉を中心に考えたパターン)

「春に」のあとに、「うれしくなる」とか「悲しくもなる」とかいろいろな気持ちを表す言葉を書きたかったが、たくさんありすぎるので、ただ「春に」だけ書いて、春に感じるいろいろな気持ちが想像できるような題にした。

解答の例② (春に を読んで読者に何を感じてほしかったか、を中心に考えたパターン)

春になるといろいろな気持ちになることを知ってほしかったけど、たくさんの種類の気持ちがあるので、「春に」で止めて、そのあとに続くいろいろな気持ちを、読む人にも考えてもらえるような題にした。

参考

作者の谷川俊太郎さんが、光村図書(教科書に谷川さんの詩をのせた会社)のインタビューを受けて、『春に』について、こう語っています。

「この詩は三十代のはじめのころに書いたもので、人間の感情は一つである場合は少ない、という実感から生まれました。悲しいといっても、悲しみ一色ということはありません。悲しいの中にもうれしいが混ざっていたりするでしょう」

まさに解答の例②のような目的でこの詩を書き、題名をつけたのかも知れませんね。

ラジオ講座国語『握手』についての答え合わせ

問いの例

どうして『握手』という短い題名がついたのだろう。考えて書きましょう。

解答の例

本文中に出てくる握手には力強いものもあれば、弱弱しいものもある。ルロイさんの健康状態を表したり、私からルロイさんへの気持ちを表したり、ひとつひとつの握手にはそれぞれ意味があるので、筆者はこの題名にしたのだと思う。

※答え合わせのポイント※

この問いがテストに出たとしたら、「握手が何度も出てくる」では満点にならないでしょう。何度も出てくるのは「親指」や「人さし指」も一緒です。弱い握手が、ルロイさんの残り少ない命を表すなど、ひとつひとつの握手に大切な意味が込められていることを、他人にわかりやすく説明することで、満点解答に近づきます。